

Kofax TotalAgility

前提条件

バージョン: 7.9.0

日付: 2021-04-07

KOFAX

© 2021 Kofax. All rights reserved.

Kofax is a trademark of Kofax, Inc., registered in the U.S. and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced, stored, or transmitted in any form without the prior written permission of Kofax.

目次

序文.....	5
関連ドキュメント.....	5
トレーニング.....	6
Kofax 製品のヘルプの入手.....	6
第 1 章: 前提条件.....	8
TotalAgility.....	8
サポートされているオペレーティング システム.....	8
最小ハードウェア要件.....	8
ソフトウェア チェックリスト.....	9
権限と特権.....	9
Transformation Server.....	11
サポートされているオペレーティング システム.....	11
最小ハードウェア要件.....	11
ソフトウェア チェックリスト.....	11
権限.....	12
管理者以外のアクセス許可.....	12
レポート サーバー.....	12
ソフトウェア チェックリスト.....	13
権限と特権.....	13
統合サーバー.....	13
サポートされているオペレーティング システム.....	13
最小ハードウェア要件.....	13
ソフトウェア チェックリスト.....	14
Kofax ライセンス サーバー.....	14
ソフトウェア チェックリスト.....	14
Kofax Message Connector.....	15
第 2 章: 前提条件ユーティリティ.....	16
前提条件ユーティリティの実行.....	16
付録 A : その他の詳細.....	18
メモリ要件の計算.....	18
MSDTC.....	18
WCF サービスの HTTP アクティベーション.....	19
Windows Server 2008 で WCF のアクティベーションを構成する.....	19
Windows Server 2012 で WCF のアクティベーションを構成する.....	20

インターネット.....	20
インターネット ブラウザ.....	20
Kofax TotalAgility.....	20
統合サーバー.....	21
インターネット インフォメーション サービス (IIS).....	21
Windows Server 2008 での IIS コンポーネントのアクティベーション.....	21
Windows Server 2012 での IIS コンポーネントのアクティベーション.....	22
ネットワーク プロトコル.....	22
Transformation Server のランタイム前提条件.....	22
統合コンポーネント.....	23
KCM プロキシ.....	23
データ アクセス.....	23
Micro Focus Content Manager.....	23
Microsoft Dynamics AX.....	23

序文

このガイドでは、次の重要な情報を示します。

- Kofax TotalAgility をインストールするためのシステム要件
- データベース管理要件
- 前提条件ユーティリティの実行手順
- さまざまなインストール タイプ用ソフトウェア チェックリスト

ソフトウェアをインストールする前に、このガイドを完全に参照してください。

関連ドキュメント

Kofax TotalAgility の製品ドキュメント セットは次の場所で入手可能です。

<https://docshield.kofax.com/Portal/Products/KTA/7.9.0-ud9cfx6hos/KTA.htm>

このガイドのほか、ドキュメント セットには次の項目が含まれています。

- Kofax TotalAgility インストール ガイド: TotalAgility のインストールおよび構成方法について説明します。
- Kofax TotalAgility 統合サーバー インストール ガイド: Kofax 統合サーバーをインストールし、他の製品と統合する方法について説明します。
- 『Kofax TotalAgility オンプレミス マルチテナント インストール ガイド』: オンプレミス マルチテナント システムのインストールおよび構成方法について説明します。
- Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド: 構成ユーティリティを使用して、さまざまなタイプのインストールおよび展開の各種構成ファイルの設定を更新する方法について説明します。
- Kofax TotalAgility 管理者ガイド: TotalAgility のインストールの構成とメンテナンスに関する情報を管理者に提供します。
- Kofax TotalAgility アーキテクチャ ガイド: オンプレミス、オンプレミス マルチテナンシー、Azure 環境のさまざまな展開を含め、TotalAgility アーキテクチャの概要について説明します。
- Kofax TotalAgility ベスト プラクティス ガイド: TotalAgility を使用する場合に、パフォーマンス、コスト、メンテナンス、可用性、およびセキュリティを改善するために従う必要があるベスト プラクティスについて説明します。
- Kofax TotalAgility 機能ガイド: TotalAgility の機能の概要を示します。
- Kofax TotalAgility 移行ガイド: 異なるバージョンからの TotalAgility のアップグレードおよびアップグレード後の構成に関する情報を提供します。
- Kofax TotalAgility のヘルプ: TotalAgility を使用した、ビジネス ジョブとケースの設計、リソースの割り当て、フォームの作成、外部アプリケーションとの統合などに関する詳細を提供します。TotalAgility アプリケーションからヘルプにアクセスするには、[ヘルプ] ボタンをクリックします。

- Kofax TotalAgility Workspace のヘルプ: Workspace を使用してアクティビティ、ジョブ、およびリソースを管理する方法について説明します。TotalAgility Workspace で [ヘルプ] ボタンをクリックして、ヘルプにアクセスします。
- Kofax TotalAgility オンプレミス マルチテナント システムのヘルプ: TotalAgility オンプレミス マルチテナント システムを使用してテナントを作成および管理する方法について説明します。
- Kofax TotalAgility Web Capture コントロールヘルプ: Web Capture コントロールを使用した、複数ページのドキュメントの作成、新しいフォルダでの新しいドキュメントの作成、誤ってスキャンされたページの削除などに関する詳細を提供します。また、Web Capture コントロール ツールバーで使用可能なボタンについても説明します。
- Kofax Analytics for TotalAgility 製品機能ガイド: ワークフローを通過するデータの追跡、プロセスとリソースの有効性の分析、ビジネス上の問題への対処に役立つダッシュボードの概要について説明します。
- Kofax TotalAgility テーブル: Kofax Analytics for TotalAgility で使用されている Kofax TotalAgility のテーブルおよびフィールドについて説明します。
- Kofax 製品からの移行ガイド: TotalAgility ファイルと Kofax トランスフォーメーション モジュールのプロジェクトを TotalAgility に移行する手順の情報を示します。

トレーニング

Kofax は、製品を最大限に活用するために役立つクラスルーム トレーニングおよびオンライン トレーニングを提供しています。トレーニング コースとスケジュールの詳細については、Kofax の Web サイトにある [Kofax Education Portal](#) (Kofax エデュケーション ポータル) にアクセスしてください。

Kofax 製品のヘルプの入手

[[Kofax Knowledge Base](#)] (Kofax ナレッジ ベース) リポジトリにある記事の内容は定期的に更新され、Kofax 製品の最新情報について参照できます。製品に関してご不明の点がある場合は、Knowledge Base (ナレッジ ベース) で情報を検索することをお勧めします。

[[Kofax Knowledge Base](#)] (Kofax ナレッジ ベース) を参照するには、[Kofax Web サイト](#) にアクセスして、ホームページで [サポート] を選択してください。

注 Kofax Knowledge Base (Kofax ナレッジ ベース) は Google Chrome、Mozilla Firefox または Microsoft Edge 向けに最適化されています。

[[Kofax Knowledge Base](#)] (Kofax ナレッジ ベース) は以下の内容を提供します。

- 強力な検索機能で必要な情報をすぐに見つけることができます。

[[Search](#)] (検索) ボックスに目的の語句を入力し、検索アイコンをクリックしてください。

- 製品情報、設定の詳細、リリース情報などのドキュメント。

[[Kofax Knowledge Base](#)] (Kofax ナレッジ ベース) のホームページをスクロールして、製品ファミリーを見つけます。目的の製品ファミリー名をクリックして、関連記事の一覧を表示します。一部の製品ファミリーの場合は、関連記事を表示するために Kofax Portal (Kofax ポータル) の有効なログイン情報を入力する必要があります。

- [Kofax Customer Portal] (Kofax カスタマー ポータル) へのアクセス (資格のあるカスタマー向け)
ページ上部にある **[Customer Support]** (カスタマー サポート) リンクをクリックしてから、**[Log in to the Customer Portal]** (カスタマー ポータルにログイン) をクリックします。
- Kofax Partner Portal (Kofax パートナー ポータル) へのアクセス (資格のあるパートナー向け)
ページ上部にある **[Partner Support]** (パートナー サポート) リンクをクリックしてから、**[Log in to the Partner Portal]** (パートナー ポータルにログイン) をクリックします。
- Kofax サポート コミットメント、ライフサイクル ポリシー、電子フルフィルメントの詳細、セルフサービス ツールへのアクセス。
[General Support] (一般サポート) セクションまでスクロールして、**[Support Details]** (サポートの詳細) をクリックし適切なタブを選択します。

第 1 章

前提条件

サポートされているオペレーティング システムおよびその他の Kofax TotalAgility の要件に関する主な情報源は、Kofax Web サイト (www.Kofax.com) で入手可能な技術仕様書です。この章では、Kofax TotalAgility ハードウェアおよびシステムの要件に関する追加情報を示します。

TotalAgility

このセクションでは、Web サーバーとアプリケーション サーバーの両方が存在する TotalAgility サーバーのシステム要件に関する情報を示します。Web サーバーと アプリケーション サーバーは同じユーザー アカウントを使用してインストールする必要があります。

注 TotalAgility は、Windows Server 2008 R2 の Hyper-V ロールなどの仮想マシン環境でサポートされています。

各仮想マシン (子パーティション) には、TotalAgility インスタンスに必要なプロセッサ リソース、メモリ、ディスク リソースがなければなりません。

サポートされているオペレーティング システム

Kofax Web サイトの技術仕様書を参照してください。

最小ハードウェア要件

コンポーネント	要件
プロセッサのタイプ	x64 プロセッサ: AMD Opteron、AMD Athlon 64、Intel EM64T サポート付き Intel Xeon、EM64T サポート付き Intel Pentium IV
プロセッサ速度	x64 プロセッサ: 2.6 GHz 以上
ディスク容量	4 GB のハード ディスク空き容量 ディスク容量の要件は、インストールする TotalAgility コンポーネントによって異なる場合があります。
メモリ	8 GB
データベース	100 MB
DVD ドライブ	ディスクからインストールする場合

ソフトウェア チェックリスト

TotalAgility をインストールする前に前提条件ユーティリティを実行すると、必要なすべてのソフトウェアがコンピュータにインストールされていることを確認するために、次のようなソフトウェア チェックが実行されます。

Web サーバーとリアル タイム Transformation サービス

- Windows オペレーティング システム (Windows 2008 以降)
- サービスとしてログオン
- IIS (ASP.NET、Windows 認証、固定コンテンツ)
- WCF HTTP アクティベーション

アプリケーション サーバー

- Windows オペレーティング システム (Windows 2008 以降)
- サービスとしてログオン
- IIS (ASP.NET、Windows 認証、固定コンテンツ)
- WCF HTTP アクティベーション
- データベース作成権限

注 Kofax Message Connector には、.NET Framework 4.8 が必要です。Microsoft Web サイトから .NET Framework をダウンロードします。

詳細については、「[付録 A](#)」を参照してください。

Web アプリケーション サーバー

Web アプリケーション サーバーのソフトウェア チェックについては、「[アプリケーション サーバー](#)」を参照してください。

権限と特権

データベース権限

- インストール中にデータベースへの接続に使用されるアカウントには、データベースを作成するための権限が必要です。
- (新しいデータベースを作成するのではなく) インストーラが既存のデータベースを上書きする場合、データベースとの接続に使用するアカウントには、既存のデータベースを削除し、新しいデータベースを作成する権限が必要です。
- インストール中に指定されたサービス アカウントは、実行時にデータベースに接続するために使用されます。このアカウントに必要なランタイム権限は、db_datareader、db_datawriter、および実行権限です。

『テナント管理システムのヘルプ』の「テナントの作成」を参照してください。

- TotalAgility オンプレミス マルチテナントのインストール後にテナントを追加する場合は、テナント管理システムの Web サイトで使用されるアカウントに、2 つのデータベース アカウント (データベース作成者とログイン作成者) が必要です。データベース作成者には、テナント データベースを作成する権限が必要です。ログイン作成者には、テナントのログインを作成する権限が必要です。『テナント管理システムのヘルプ』を参照してください。

注 サポートされるデータベースのリストについては、Kofax Web サイト (www.Kofax.com) で入手可能な技術仕様書を参照してください。

Kofax TotalAgility コンポーネントの実行権限

さまざまな Kofax TotalAgility コンポーネントを実行するために必要な権限は、「[最小権限の原則]」に基づいています。

インストール権限は、TotalAgility の実行に必要な権限とは異なります TotalAgility をインストールするには、管理者権限が必要です。

すべてのサービス アカウントには特定の権限が必要です。

- ローカル ポリシー権限
 1. 管理者としてログオンし、コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
 2. `secpol.msc` コマンドを実行します。
 3. [セキュリティの設定] で、ローカル ポリシー に移動し、ユーザー権限の割り当て をクリックして、アカウントに次の権限があることを確認します。
 - ローカルでログオンを許可する
 - サービスとしてログオン
 - トラバース チェックをバイパスする
- ユーザーは ProgramData フォルダに対する読み取りおよび書き込み権限を保持していて、ドメインに対してネットワーク ユーザー アカウントを列挙する必要があります。AppPool ユーザーが変更された場合は、ProgramData フォルダに対する権限を手動で付与する必要があります。
- 分割 Web アプリケーション サーバーが展開され、Kerberos が使用されている場合、IIS が使用するコンピューターとユーザー アカウントを委任に対して信頼できるようにします。
- Transformation Server サービスを実行するアカウントには、特定の [アクセス許可](#) が必要です。
- Streaming サービスを実行するサービス アカウントには、URL を登録し、その名前空間を予約する権限が必要です。このアカウントが非管理者アカウントである場合、ローカル マシンの管理者はサービス アカウントにこれらの権限を付与する必要があります。TotalAgility インストール ガイドを参照してください。
- ライセンス サービスは、非管理者アカウントで実行できます。非管理者アカウントには、WCF リスナーを開く権限が必要です。非標準ポートの非管理者アカウントで実行している場合は、名前空間を予約する必要があります。そのためには、コマンド プロンプトで、ローカル マシンの管理者権限を持つアカウントを使用して次のコマンドを実行します。

```
netsh http add urlacl url=http://+:3581/SAL user=%domainuser%
```

```
netsh http add urlacl url=http://+:3581/SALMetadata user=%domainuser%"
```

- 非管理者アカウントでインポート コネクタを実行する場合は、次の権限が必要です。
 - レジストリ権限: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Kofax\KIC-ED\MC の読み取り権限
 - フォルダ権限: ProgramData\Kofax\KIC-ED\MC フォルダ、インストール フォルダ、一時フォルダに対するフルコントロール。

アクティブ ディレクトリ同期の実行に使用されるアカウント (サーバー変数として設定済み) には次の権限が必要です。

- MemberOf を読み取る
- コンテンツを一覧表示する
- メールアドレスを読み取る
- userPrincipalName を読み取る
- 部門を読み取る
- cName を読み取る

Transformation Server

このセクションでは、Transformation Server をインストールする場合のシステム要件に関する情報を示します。

サポートされているオペレーティング システム

Kofax Web サイトの技術仕様書を参照してください。

注 Transformation Server は、いくつかのランタイム前提条件をインストールします。前提条件ユーティリティは、Transformation Server でインストールされないソフトウェアをチェックします。

最小ハードウェア要件

コンポーネント	要件
プロセッサのタイプ	x64 プロセッサ: AMD Opteron、AMD Athlon 64、Intel EM64T サポート付き Intel Xeon、EM64T サポート付き Intel Pentium IV
メモリ	「 メモリ要件の計算 」を参照してください
データベース	不要

ソフトウェア チェックリスト

- Windows オペレーティング システム (Windows 2008 以降)
- サービスとしてログオン

注 Transformation Server の場合、TotalAgility をインストールした場所に Transformation Server がインストールされていると、.NET Framework が自動的にインストールされます。Transformation Server または Transformation Designer を TotalAgility とは別にインストールする場合は、サポートされるバージョンの .NET Framework がそのマシンにすでにインストールされていることを確認してください。

詳細については、「付録 A」を参照してください。また、Transformation Server のランタイムの前提条件も参照してください。

権限

すべての Windows (Server) オペレーティング システムで Transformation Server オンプレミス マルチテナントを実行するには、管理者権限が必要です。

管理者以外のアクセス許可

Transformation Server は、次の非管理者権限を使用してオンプレミスで実行できます。

Transformation Server のユーザーアカウント (TS_User など) を設定します。

- TS_User は Windows グループの一部である必要があります。ユーザー。
- TS_User には、ローカル セキュリティ ポリシーの権限が必要です。サービスとしてログオンします。
- TS_User には、ロギング用に構成されたログ ファイル フォルダへのフル アクセス権が必要です。(デフォルトでは、インストール フォルダです)
- TS_User には、次のフォルダへのフル アクセス権が必要です。
 - C:\ProgramData\Kofax
 - C:\Program Files (x86)\Common Files\Kofax\Server

注 このフォルダには「Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config」が含まれています。

- TS_User には、データベースに対する次の権限が必要です。
 - db_reader
 - db_writer
 - 実行権限

レポート サーバー

Kofax Reporting は、運用メトリックと監査データの履歴を一元的に保管します。Kofax レポートには、ETL エージェントやデータベースなどのコンポーネントが含まれます。

重要 Transformation Server はプロセス利用率が高いため (99 %)、Transformation Server と同じマシンにレポート サーバーをインストールすると、「[SQL タイムアウト エラー]」が生成されます。そのため、レポート サーバーは Transformation Server とは分けてインストールする必要があります。

ソフトウェア チェックリスト

- Windows オペレーティング システム (Windows 2008 以降)
- サービスとしてログオン

詳細については、「付録 A」を参照してください。

権限と特権

- レポート サーバーを実行するユーザーには、「[サービスとしてログオン]」権限が必要です。ユーザーに管理者権限は必要はありません。
- ユーザーは ProgramData フォルダに対する読み取りおよび書き込み権限を保持していて、ドメインに対してネットワーク ユーザー アカウントを列挙する必要があります。AppPool ユーザーが変更された場合は、ProgramData フォルダに対する権限を手動で付与する必要があります。
- また、Windows 認証が使用されるすべての通信チャンネルで、レポート サーバーを実行しているユーザーが使用されます。たとえば、Windows 認証が SQL Server に使用されている場合、このユーザーにはこのサーバーに対する権限が必要です。そうでない場合、レポート サーバーは機能しません。

統合サーバー

このセクションでは、Web サーバーとアプリケーション サーバーの両方が存在するサーバーの統合サーバー システムの要件に関する情報を示します。

注 各仮想マシン (子パーティション) には、統合サーバー インスタンスに必要なプロセッサ リソース、メモリ、ディスクリソースがなければなりません。

各仮想マシン (子パーティション) には、統合サーバー インスタンスに必要なプロセッサ リソース、メモリ、ディスクリソースがなければなりません。

サポートされているオペレーティング システム

サポートされるオペレーティング システムおよび TotalAgility のその他のシステム要件に関する最新情報については、Kofax Web サイト (www.Kofax.com) で入手可能な技術仕様書を参照してください。

最小ハードウェア要件

コンポーネント	要件
プロセッサのタイプ	x64 プロセッサ: AMD Opteron、AMD Athlon 64、Intel EM64T サポート付き Intel Xeon、EM64T サポート付き Intel Pentium IV
プロセッサ速度	x64 プロセッサ: 2.6 GHz 以上
ハード ディスク	最小: 4 GB のハード ディスク空き容量 ディスク容量の要件は、インストールする統合サーバーのコンポーネントによって異なります。
メモリ	最小: 8 GB

コンポーネント	要件
DVD ドライブ	ディスクからインストールする場合

ソフトウェア チェックリスト

- Windows オペレーティング システム (Windows 2008 以降)
- サービスとしてログオン
- IIS (ASP.NET、Windows 認証、固定コンテンツ)
- WCF HTTP アクティベーション

詳細については、「[付録 A](#)」を参照してください。

Kofax ライセンス サーバー

このセクションでは、ライセンス サーバーに関する情報を提供します。

ソフトウェア チェックリスト

Kofax TotalAgility で使用する Kofax ライセンス サーバーを正常にインストールするには、次の前提条件を満たしていることを確認します。

- 「サービスとしてログオン」権限は、Windows サービスを実行しているユーザーに割り当てる必要があります。
- Visual Studio C++ 2019 再頒布可能 x86 ランタイムをインストールする必要があります。
- ライセンス サーバーが TotalAgility とは別にインストールされている場合、インストールは昇格された権限を持つユーザーが実行する必要があります。

詳細については、「[付録 A](#)」を参照してください。

Kofax Message Connector

このセクションでは、Kofax Message Connector をインストールおよび操作するためのシステム要件に関する情報を示します。

コンポーネント	要件
ディスクの使用状況	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーション用に約 200 MB。 転送されたドキュメントを一時的に保存するための追加容量。 (サポートされる最大ストレージ サイズ = 64000 MB)。
サポートされているサードパーティの FAX サーバー	<p>Kofax Message Connector は、次のサードパーティの FAX サーバーからメッセージを接続およびインポートできます (最小バージョンがリストされています)。</p> <ul style="list-style-type: none"> RightFax 9.0 Biscom 5.0.5 Kofax Communication Server 9.1 <pre>注 C:\Windows\System32>regsvr32 "C:\Program Files (x86)\RightFax\Shared Files \rfaxui.dll" C:\Windows\System32>regsvr32 "C:\Program Files (x86)\RightFax\Shared Files\rfcomapi.dll" C:\Windows\System32>regsvr32 "C:\Program Files (x86)\RightFax\Shared Files \rfaxui.dll" C:\Windows\System32>regsvr32 "C:\Program Files (x86)\RightFax\Shared Files\rfcomapi.dll"</pre> <p>RightFax クライアント ソフトウェア バージョン 10.x では、手動登録は必要ありません。</p>
添付のエンコーディング	<p>Kofax Message Connector は、次の Content - Transfer エンコード タイプの添付を認識します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Base 64 引用済み - 印刷可能 <p>TotalAgility は、uuencode や Xxencode などの他のエンコード タイプをサポートしていません。</p>

第 2 章

前提条件ユーティリティ

Kofax TotalAgility を使用するには、インストールを続行する前に、特定のソフトウェアをシステムにインストールする必要があります。TotalAgility をインストールする前に、さまざまなタイプのインストールの前提条件ユーティリティを実行し、必要なすべてのソフトウェアがコンピュータにインストールされていることを確認できます。

注 前提条件ユーティリティを実行するには、ユーザーに管理者権限が必要です。

前提条件ユーティリティの実行

1. インストール メディアの TotalAgility\Utilities\Pre-requisite Utility に移動し、**Agility.Installation.Server.Prerequisites** を右クリックして、[管理者として実行] を選択します。
2. [TotalAgility 前提条件の確認] ウィンドウで、[次へ] をクリックします。
[インストール タイプ] ウィンドウが表示されます。
3. **Web/アプリケーション サーバー**などのインストール タイプを選択します。
4. [次へ] をクリックします。
[資格情報] ウィンドウが表示されます。
5. TotalAgility を実行するユーザーの資格情報を入力します。
6. [次へ] をクリックします。
7. データベース ウィンドウで、いずれかのオプションを選択してデータベースを作成します。
 - インストール プログラムがデータベースを自動的に作成できるようにするには、インストール プログラムで**自動実行**を選択し、データベース サーバー モードを選択します。

SQL Server (SSL 不使用)	<ol style="list-style-type: none">a. データベース サーバー ボックスに、データベース サーバーの名前を入力します。b. セキュリティ で、次のいずれかのオプションを選択します。<ul style="list-style-type: none">• Windows 認証• SQL Server 認証 (ユーザー名とパスワードを入力します)
SQL Azure	<ol style="list-style-type: none">a. データベース サーバー ボックスに、データベース サーバーの名前を入力します。b. セキュリティ で、SQL Server 認証 を選択し、ユーザー名とパスワードを入力します。

- 手動でデータベースを作成するには、**手動** を選択します。

8. **[次へ]** をクリックします。
選択したインストール タイプの「ソフトウェア チェック」ウィンドウが表示されます。必要なソフトウェアのリストと、ソフトウェアがインストールされているかどうかが表示されます。
9. 検出されたソフトウェア リストを確認します。
 - 必要なソフトウェアの一部がインストールされていない場合、ソフトウェアのチェックはエラーで完了し、デスクトップに自動作成された PrerequisiteUtilityErrorLog.txt にエラーが記録されます。エラーを解決し、結果にエラーがなくなるまでユーティリティを再実行します。
 - システムに必要なソフトウェアがすべてインストールされている場合は、終了 をクリックします。

付録 A

その他の詳細

このセクションでは、統合コンポーネントの前提条件など、さまざまなインストール タイプの追加のチェックについて説明します。

メモリ要件の計算

Transformation Server を実行しているコンピュータには、複数の抽出グループおよび分類グループをメモリにキャッシュするための十分なメモリが必要です。Transformation Server は、メモリの使用を最大化し、空きメモリを使用して追加の抽出プロセスを実行およびキャッシュします。

Transformation Server には、オペレーティング システムのメモリ要件に加えて、抽出グループおよび分類グループのサイズと利用可能なスロット数に基づいたメモリが必要です。Transformation Server に必要な最小メモリ量を計算するには、次の操作を行います。

1. 利用可能なスロット数を判別します。インストール中に、Transformation Server は次の式を使用してスロット数を自動的に計算できます。

プロセッサ コアの数 * 1.25

クアッド コア プロセッサの場合、5 つのスロットがあります。

インストール中にスロット数を指定することもできます。

2. 次の式を使用して、メモリの最小量を計算します。

$200 \text{ MB} + (\text{平均抽出プロセスサイズ} * \text{スロット数})$

抽出プロセスサイズは、単一の抽出プロセスに必要なメモリの量であり、分類グループおよび抽出グループの複雑さに依存します。通常、これらは 150 ~ 200 MB ですが、最大で 500 MB になる場合があります。正確なサイズを把握するには、Windows タスク マネージャーでプロセスを調べて、ExtractionProcess.exe のインスタンスを探します。

たとえば、大規模な抽出グループおよび分類グループを処理していて、利用可能なスロットが 5 つある場合、次のように最小メモリ量を計算します。

$200 \text{ MB} + (250 \text{ MB} * 5) = 1450 \text{ MB}$ または 1.42 GB

これらは最小要件です。メモリを追加すると、システムのパフォーマンスが向上します。

MSDTC

アプリケーション サーバーとデータベースが同じサーバーにインストールされている場合、MSDTC を起動する必要はありません。メイン データベースやアーカイブ データベースなどの分割データベースが

ある場合、またはアプリケーション サーバーとデータベースが分散環境にある場合は、Microsoft 分散トランザクション コーディネーター (MSDTC) が必要です。

- マシンで MSDTC を有効にし、次の設定を選択する必要があります。
 - ネットワーク DTC アクセス
 - トランザクション マネージャー通信 (認証は必要なし)
 - XA トランザクションの有効化
 - SNA LU 6.2 トランザクションの有効化
- Windows サーバーで、以下を実行して設定を有効にします。
 1. [コントロール パネル] > [システムとセキュリティ] > [管理ツール] に移動します。
 2. コンポーネント サービス をクリックします。
[コンポーネント サービス] ウィンドウが表示されます。
 3. 左側のパネルの コンソールルート で、[コンポーネント サービス] > [分散トランザクション コーディネーター] を展開し、ローカル DTC を選択します。
 4. [ローカル DTC] コンテキスト メニューで プロパティ を選択します。
 5. [ローカル DTC プロパティ] ウィンドウの セキュリティ タブで、ネットワーク DTC アクセス および SNA LU 6.2 トランザクションの有効化 を選択します。
- 設定が完了したら、分散トランザクション コーディネーター サービスを開始する必要があります。MSDTC を手動で起動するには、コマンド プロンプト ウィンドウで次のコマンドを実行します。`net start msdtc`。または、[ファイル名を指定して実行] で `Services.msc` と入力して **Enter** キーを押します。分散トランザクション コーディネーター サービスを右クリックして、**開始** をクリックします。

WCF サービスの HTTP アクティベーション

- IIS がコンピュータにインストールされていることを確認します。
- .NET Framework が IIS に登録されていることを確認します。
- IIS で認証が有効になっていることを確認します (Windows と匿名の両方を有効にする必要あり)。

Windows Server 2008 で WCF のアクティベーションを構成する

1. コントロール パネル > プログラム > プログラムと機能にアクセスします。
2. **[Windows の機能の有効化または無効化]** リンクをクリックします。
Windows の機能画面が表示されます。
3. **Microsoft .Net Framework 4.5.2 Advanced Services > WCF サービス** を展開し、**HTTP アクティベーション** を選択します。
4. **[OK]** をクリックします。
WCF がコンピュータにインストールされます。ASP.NET が既にインストールされているコンピュータに WCF をインストールした場合は、IIS で ASP.NET を再登録する必要があります。

Windows Server 2012 で WCF のアクティベーションを構成する

1. タスクバーの [サーバー マネージャー] をクリックします。
サーバー マネージャー ダッシュボード ページが表示されます。
2. [ロールと機能の追加] リンクをクリックします。
ロールと機能の追加 ウィザード画面が表示されます。
3. 次へ をクリックします。
4. インストール タイプを ロール ベースまたは機能ベースのインストール または リモート デスクトップ サービス インストール として選択し、次へ をクリックします。
5. ロールと機能をインストールするサーバーまたは仮想ハードディスクを選択し、次へ をクリックします。
6. [サーバー ロール] タブで [Web サーバー (IIS)] を展開し、次の操作を行います。
 - a. Web サーバー > アプリケーション開発を展開し、ASP.NET 4.5.2 を選択します。
 - b. [管理ツール] を展開し、IIS 管理コンソール を選択します。
7. 次へ をクリックします。機能 タブで .NET Framework 4.5.2 機能が選択されていて、WCF サービスで HTTP アクティベーション が選択されていることを確認します。必要に応じて、TCP アクティベーション、名前付き パイプ アクティブ化など、他のタイプの WCF サービスを追加できます。
8. 次へ をクリックします。
9. 確認 タブで、インストール をクリックします。

インターネット

共有またはリモート ライセンス サーバーを使用している場合、製品コードとシリアル番号を取得するにはインターネットへの接続が必要です。

インターネット ブラウザ

このセクションでは、サポートされているブラウザに関する情報を示します。

Kofax TotalAgility

スキャン、Document review、Validation、確認用のキャプチャ対応フォームを除くモバイルフォームは、以下のブラウザの最新バージョンとその直前のバージョン、それらに相当するモバイルをサポートしています。

- Edge
- Chrome
- Safari (オンプレミス マルチテナントではサポートされていません)

キャプチャ フォームは、次のブラウザの最新バージョンをサポートしています。

- Edge
- Chrome (32 ビット)

注 スキャン対応フォームを表示するには、Web Capture サービスをインストールする必要があります。TotalAgility インストール ガイドを参照してください。

PDF ファイルを表示するには、PDF プラグインをインストールする必要があります。

統合サーバー

統合サーバーは、以下のブラウザの最新バージョンと以前のバージョン、それらに相当するモバイルをサポートしています。

- Edge
- Chrome

インターネット インフォメーション サービス (IIS)

IIS v7 以降が必要です。

- サーバー マネージャーで ASP.NET および Windows 認証を使用して Web サーバーのロールを追加します。
- Windows Communication Foundation(WCF) をアクティブ化するには、ASP.NET 4.5.2 および .NET WCF 4.5 を IIS と共にインストールします。
- IIS をインストールする前に .NET Framework がインストールされている場合は、IIS に .NET Framework を登録する必要があります。コマンド プロンプト ウィンドウで、`C:\Windows\Microsoft.NET\Framework64\v4.0.30319` にある `aspnet_regiis -i` を実行します。IIS が既にインストールされている場合、.NET Framework はインストール中に IIS に自身を登録します。
- サービス拒否攻撃に対する IIS Dynamics IP Restriction を使用します。
- URL Rewrite をインストールし、機密ファイルへのアクセスを禁止するルールを記述します。

注 統合サーバーには URL 書き換えは必要ありません。

Windows Server 2008 での IIS コンポーネントのアクティベーション

1. コントロール パネル > プログラム > プログラムと機能 にアクセスします。
2. **[Windows の機能の有効化または無効化]** リンクをクリックします。
3. **World Wide Web サービス** を展開し、次の操作を実行します。
 - **[アプリケーション開発機能]** を展開し、**[ASP.NET]** を選択します。
 - **[一般的な HTTP 機能]** を展開し、**[静的コンテンツ]** を選択します。
 - **[セキュリティ]** を展開し、**[Windows 認証]** を選択します。

4. **[OK]** をクリックします。
選択した IIS コンポーネントがコンピュータにインストールされます。

Windows Server 2012 での IIS コンポーネントのアクティベーション

1. タスクバーの **[サーバー マネージャー]** をクリックします。
サーバー マネージャー ダッシュボード ページが表示されます。
2. **[ロールと機能の追加]** リンクをクリックします。
ロールと機能の追加ウィザード画面が表示されます。
3. **次へ** をクリックします。
4. インストール タイプを **ロール ベース** または **機能ベース** のインストール または **リモート デスクトップ サービス インストール** として選択し、**次へ** をクリックします。
5. **ロールと機能をインストールするサーバー** または **仮想ハードディスク** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
6. **[サーバー ロール]** タブで **[Web サーバー (IIS)]** を展開し、次の操作を行います。
 - a. **[Web サーバー]** > **[一般的な HTTP 機能]** を展開し、**[静的コンテンツ]** を選択します。
 - b. **Web サーバー セキュリティ** を展開し、**Windows 認証** を選択します。
 - c. **Web サーバー** > **[アプリケーション開発]** を展開し、**ASP.NET** を選択します。
7. **[次へ]** をクリックします。機能 タブで **.NET Framework 4.5.2 機能** が選択されていて、**WCF サービス** で **HTTP アクティベーション** が選択されていることを確認します。
8. **[次へ]** をクリックします。
9. **確認** タブで、**インストール** をクリックします。

ネットワーク プロトコル

TCP/IP は、サポートされているネットワーク プロトコルです。

Transformation Server のランタイム前提条件

ランタイム Transformation Server には以下の前提条件が必要です。

- Microsoft .NET Framework 4.8
- MS_XML 4.0**

- Visual Studio VC ++ 再頒布可能**
 - vcredist_2008_SP1_x86
 - vcredist_2010_SP1_x86
 - vcredist_2010_SP1_x64
 - vcredist_2013_x86
 - vcredist_2013_x64
 - vcredist_20017_x86
 - vcredist_20017_x64

**現在マシンで利用できない場合は自動的にインストールされます。

統合コンポーネント

KCM プロキシ

KCM プロキシをインストールする前に、次のいずれかの方法で Web サーバーに URL Rewrite をインストールします。

- Microsoft Web サイトからダウンロードします。
- Web Platform Installer(Web PI) を使用します。Web PI を使用している場合は、手動でインストールするか、コマンドプロンプト ウィンドウで次のコマンドを実行します。

```
C:\[インストール場所]\Web Platform Installer\WebPICmd"install\accepteula  
\Products:ARRv3_0
```

ブラウザで KCM (Kofax Communication Manager) Interactive のフォーム コントロールが使用されている場合は、Kofax TotalAgility サーバーにホストされているフォームで作成されたクロスドメイン HTTP リクエストを KCM サーバーに送信できません。KCM プロキシはクロスドメイン通信を許可し、KCM コントロールを使用してドキュメントを生成します。

注 KCM 機能を使用するには、使用中のすべての Web サーバーでインストーラを実行する必要があります。KCM プロキシ Web サーバーを追加する前に、Microsoft プラグインである Web Platform Installer がインストールされていることを確認してください。

データ アクセス

Kofax TotalAgility は、OLEDB プロバイダである Oracle ODAC ドライバをサポートします。

Micro Focus Content Manager

- IIS
- .NET Framework
- TotalAgility (オプション)

Microsoft Dynamics AX

- TotalAgility で作成されたユーザーの場合、展開管理者権限が必要です。

- ユーザーがデフォルトの Deployment Administrator を使用しないで TotalAgility Dynamics AX 統合をインストールする場合、ユーザーは次の条件を満たす必要があります。
 - AX のシステム管理者である
 - CAL のフル アクセス権を持っている。

上記の基準を満たさないと、インストール中に「システムはリクエストを処理できません」というエラーメッセージが生成されます。

注 64 ビットのオペレーティング システムと Dynamics AX 2009 32 ビット アプリケーションを使用している場合は、DAX Communicator サイトに関連付けられているアプリケーション プール アカウントを有効にします。IIS Manager で、[アプリケーション プール] > [DAXAppPool] > [AdvancedSettings] をクリックし、[32 ビット アプリケーションを有効にする] を True に設定します。